ベストクラス選定理由書

作成者：石原瑞己・風見麻緒・鎌田菜絵・竹内七海・中山陸斗・西銘優海・根本ゆな・吉水裕也・筒井茂喜

科目名称　　家族支援心理学（昼間クラス） （担当教員名：岡村章司）	
課　　程　：大学院（修士）	開講時期：後期
授業形態：　講義	授業規模：３１人以上
インタビュー対象教員名　　岡村章司 （実施日時：8 月 21 日；　実施場所：教育・言語・社会棟 302 号室）	
インタビュー対象受講者名　　井口大資・安積柔紀・山根悠夏・近藤倫子 （実施日時：9 月 25 日；　実施場所：　Teams 上）	

【選定理由】

以下の 3 つの理由から選定した。

・コメントの中に「本学最高の授業の 1 つ」「全国の現職教員が受けるべき」「自身の多くのバイアスに気づくことができる」といった高評価の内容があり、充実した授業内容であったことが伝わってきた。

・履修者数 59 人に対して回答者数 43 人で多くの受講生が評価に参加している。

・演習とオンラインが併用されていて、チャットを多用して双方向で学習できるように工夫されている。

【担当教員へのインタビューより】

本講義は講義が主体となっているが、学生が受け身にならないような工夫が多く施されていた。講義の始めに問いを投げかけ、講義の始めと中間と終わりにディスカッションの時間を設けて自身の困難ケースを振り返るなど自分ごととして捉えて、学校（教師）としてできることと個人の課題の 2 つを設定して同じグループで考え続けたり、折に触れて担当教員の経験を講義で紹介し、そこで出会った保護者のことばについてグループで考えさせたりするといった工夫によって学生が主体的に講義に取り組めるようになっていた。また、講義では研究されていることなどを説明するが、課題では保護者支援の実態がわかる論文や当事者目線の手記を読むことで、より保護者支援についての理解が深まるように設定されていた。さらに、多くの学生が受講できるように学生の都合に合わせて、予定よりもオンラインの講義を増やされていた。

「保護者は教師にとっての最大のパートナーである」ので保護者のことを理解してもっと関わっていくような教員を 1 人でも多く増やしていきたい、保護者支援を通して教員としてのあり方に揺さぶりかけたいという担当教員の熱い思いが感じられた。

【受講生へのインタビューより】

担当教員の経験を聞くことができ、自分の意見をより実践的に考えることができるような講義であった。また、グループ活動を通して現職の先生方を含むさまざまな人と意見交換をし、担当教員もそのグループワークに寄り添う形となっていた。オンラインでも講義が行われていたが、対面と同じ緊張感で行われていた。本講義にて、障がい者の保護者、家族の支援について学ぶことができ、周囲の人の心理を理解した上でどのようなことができるのかを考えていた。保護者が独特の心理状況であることや、ストレスを抱えていることを理解し、受講生自身が、何ができるのかを考えられるような講義となっていた。障がい以外にも、担当教員の実際にあった話を自分たちで実際どのように行動するか考えてみることで、今後受講生自身が教員になったときにつながるような講義になっていた。ただ聞くだけでなく、担当教員を交えて受講生自身が主体的に取り組めるような講義であることがインタビューを通して分かった。

以上のことから、本授業を令和 6 年度「ベストクラス」として推薦する。